

科目名 Course Name	児童・家庭福祉 Child and Family Welfare	ナンバリング No.	I1-003				
年次	1年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	大熊 信成						
連絡方法	C-Learning で対応。または社会福祉棟 3F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修/選択	選択(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)						
関連 DP	DP2, DP3, DP5						
授業の概要と 到達目標	<p>高度な社会システムとともに生活も豊かになっている現代社会において、児童が健全に育ち豊かな人格形成をすることがかえって難しい状況である。この授業では事例を中心としながら福祉・教育・心理など多角的なアプローチによって理解を深めていく。そして児童の個々の諸問題に応じた援助技術を学んでいき、その理解と実践力の習得を図る。</p> <p>① 児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について説明できるようにする。</p> <p>② 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解し、説明できるようにする。</p> <p>③ 児童や家庭福祉に係る法制度について理解し、説明できるようにする。</p> <p>④ 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解し、説明できるようにする。</p> <p>⑤ 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解し、説明できるようにする。</p>						
授業の方法	基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。また必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行い、知識の定着を図る。						
学習成果	L01						
	L02	①児童の定義や児童及び家庭福祉制度の構造と仕組みを体系的に説明することができる。 ②児童の権利について、歴史的背景と制度の概要を明確にし、説明することができる。					
	L03	児童及び家庭福祉に係る他の法制度が何故必要なのかを明確にし、説明することができる。					
	L04						
課題に対する フィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。						
教科書/ 参考図書	① 児童・家庭福祉 第2版 中央法規出版 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 ② 『現代社会福祉の諸相』 大学図書出版 大熊編著他 授業中に指示し、資料を配布する。						
履修上の留意点 やルール等	一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の 実務 経験							

成績評価の方法と基準					
成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。		20		
レポート/作品	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価である S は意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。		20		

発表				
小テスト				
試験	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。			60
その他				
合計			40	60

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス(授業の進め方、留意事項、成績評価等) 現代社会と児童福祉・家庭福祉の役割 児童・家庭の定義と権利
	事前・事後学習	児童福祉の意味についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.2～20 配布資料を参照すること。
2	授業内容	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境
	事前・事後学習	児童・家庭の生活実態と社会環境についてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.38～45
3	授業内容	児童・家庭福祉の歴史①児童福祉の理念
	事前・事後学習	児童・家庭福祉の歴史についてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.24～37
4	授業内容	児童・家庭福祉の歴史②児童観の変遷
	事前・事後学習	児童・家庭福祉の歴史についてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.24～37
5	授業内容	児童・家庭福祉の歴史③児童・家庭福祉制度の発展過程 ※レポート「現代社会における子ども」※提出は第6回目の授業日
	事前・事後学習	児童・家庭制度の発展過程について調べる。レポートを作成すること。 テキストp.24～37 配布資料を参照すること。
6	授業内容	児童・家庭に対する法制度①児童福祉法
	事前・事後学習	児童福祉法について調べておくこと。テキストp.48～86
7	授業内容	児童・家庭に対する法制度②児童虐待の防止等に関する法律
	事前・事後学習	児童虐待の防止等に関する法律についてテキストを参照にしてノートにまとめること。 テキストp.48～86
8	授業内容	児童・家庭に対する法制度③DV防止法
	事前・事後学習	DV防止法についてテキストを参照にしてノートにまとめること。テキストp.48～86
9	授業内容	児童・家庭に対する法制度④母子及び父子並びに寡婦福祉法
	事前・事後学習	母子及び父子並びに寡婦福祉法について調べておくこと。テキストp.48～86
10	授業内容	児童・家庭に対する法制度⑤母子保健法 児童手当法、児童扶養手当法他
	事前・事後学習	上記法律についてテキストを参照にしてノートにまとめておくこと。テキストp.48～86
11	授業内容	障害児の福祉について レポート「障害児における支援」※提出は第12回目の授業日
	事前・事後学習	障害児の福祉について調べておくこと。レポートを作成すること。テキストp.48～86
12	授業内容	児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割①公私の役割関係、国、都道府県、市町村の役割、児童相談所の役割、組織・団体の役割、関連する専門職の役割
	事前・事後学習	関係機関と専門職の役割についてテキストを参照にしてノートのまとめること。 テキストp.48～86
13	授業内容	児童・家庭に対する支援の実際 児童虐待 社会福祉士の役割
	事前・事後学習	児童虐待の定義について調べておくこと。テキストp.222～229
14	授業内容	児童を取り巻く諸問題 多種連携について
	事前・事後学習	多種連携についてテキストを参照にして自分の意見をまとめておくこと。 テキストp.222～229

15	授業内容	その他の児童や家庭(女性、若者を含む)に対する支援における組織・団体の役割について 授業のまとめ
	事前・事後学習	その他の児童や家庭(女性、若者を含む)に対する支援における組織・団体の役割試験対策を行うこと。試験対策をすること。テキストp.194～254 配布資料を参照すること。